東奥日報社提供

東　奥　日　報
2020年（令和2年）7月27日（月曜日）（12）

道路工事 最先端技術は

ICT見学会に八工大生ら40人

三沢

三沢市の中村建設（中村陽平社長）は21日、六ケ所村との境界近くにある高瀬橋近くの国道338号道路改良工事現場で、ICT（情報通信技術）を使った施工技術の見学会を開いた。八戸工業大学の学生や地元建設会社社員ら約40人が、最先端の技術に理解を深めた。

3Dレーザースキャナーの機能や使い方を学ぶ八工大の学生たち

中村建設の内沢央教施工管理課長や建設機器レンタル業「ほくとう」（八戸市）、建設コンサルタント「エヌティーコンサルタント」（盛岡市）の担当者が講師を務めた。学生らは3グループに分かれ、3Dレーザースキャナーを用いた測量や設計データ作成、位置情報を使った自動制御の建設機械による路盤工事などを見学。高密度の測量ができることや、工事作業員の労力減少につながることを学んだ。

中村社長は「生産性向上が重要になる中、次の時代を担う若い世代にICT技術を知ってもらい、可能性を一緒に考えたい」と見学会企画の狙いを説明。終了後、八工大土木建築工学科4年の立花郁巳さん（21）は「大学で目にしたことのない現場で使われている専門技術に触れ、とても良い経験になった」と話していた。（岡田圭逸）

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」